

## 日本におけるポストコロニアルな経済的排除／包摂

○ 北星学園大学大学院 宮崎 理 (8539)

キーワード：社会的排除，ポストコロニアリズム，積極的労働市場政策

### 1. 研究目的

「統合的 (integrative)」なメカニズムであり「包含的 (inclusive)」な場所とされてきた労働市場と福祉国家のインスティテューションは、同時に「非統合的 (disintegrative)」で、「非包含的 (exclusive)」なのではないかという問題が、社会的排除に関するヨーロッパの議論では、一つの重要なテーマとなっている (O'Brien and Penna 2008)。これは、特に、ポスト構造主義とポストコロニアリズムの視座からなされている議論である。

近年、日本においても、社会的排除は、社会福祉学研究および社会政策の注目のタームとなっている。日本では、経済的排除／包摂に焦点が当てられる傾向にあり、積極的労働市場政策が展開されている。それに対して、ワークフェア、アクティベーション、ベーシックインカムなどの諸原理が論じられ、包摂政策の不十分さが指摘されたり、より良い包摂政策が提起されたりしている。だが、包摂をめざす政策が存在するにもかかわらず排除が生じるということは、単に政策の不足や不十分さに還元できる問題なのであろうか。

本研究では、経済的排除／包摂に焦点が当てられている日本の社会的排除に関する研究と政策をポストコロニアリズムの視座から考察し、その問題点を明らかにする。

### 2. 研究の視点および方法

本研究は文献研究である。本研究における分析の視座であるポストコロニアリズムとは、形式的な植民地支配が終結した段階であるにも関わらず、植民地的状況が非形式的なものとして存続しており、支配／被支配的、抑圧／被抑圧的な諸関係が構造的に再生産され続けている様を明らかにする概念である。これは、植民地主義を、地理的・時間的に制約されたものではなく、「帝国主義的姿勢 (imperial attitude)」としてとらえる視座である (Said = 1998 : 53)。「ポスト」という接頭語には、「一般の意識においては過去とみなされているながら現代のわれわれの社会性や意識を深く規定している構造、それをどう考えるのか、それとどう向き合っていくべきかという問題提起」が含まれている (鶴飼 1998 : 42)。

本研究では、ポストコロニアリズムの視座から、以下の点を論じる。最初に、日本における社会的排除／包摂をめぐる政策動向と先行研究を検討し、経済的包摂／排除に焦点が当てられていることが有する特徴を把握する。次に、労働市場が一義的に包摂の場とされていることの問題点を、排除／包摂の形式的／非形式的な次元において考察する。最後

に、これらの問題点を、社会的排除のコンセプトにかかわる理論的なものとして指摘する。

### 3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会研究倫理指針に準拠したものである。

### 4. 研究結果

本研究の結果として、以下の3点があげられる。第1に、経済的排除／包摂に焦点をあてた政策では、ナショナルなデータに基づいた分析がなされており、排除はもっぱら日本国民間の不平等の問題とされているという特徴が把握された。

第2に、経済的な排除の克服に焦点をあてた議論では、労働市場が排除の場であるという視点が欠落しているということが問題点としてあげられた。例えば、特別永住者は形式的には労働市場への参加が拒まれてはいないと同時に、労働市場への参加が要求されている。だが、排外主義は非形式的なものとして労働市場において日常的に再生産されている。

第3に、社会的排除／包摂の把握に関する理論的な問題点として、排除と包摂は単線的にとらえられており、社会的・経済的・文化的・政治的の複数の次元での排除の絡み合いや、排除に至るプロセスへの注目が希薄であることなどが指摘された。

### 5. 考察

経済的排除／包摂に焦点があてられていることを、ポストコロニアリズムの視座から考察すると、包摂をめざす政策が結果的に排除を生み出してしまったり、形式的な包摂によって、非形式的な排除が覆い隠されてしまったりしているということが見えてくる。今後の課題として、排除を生み出す価値観や考え方がどのように再生産されているのかを明らかにすることがあげられる。また、「帝国主義的姿勢 (imperial attitude)」は、単に植民地支配を背景として日本に来た人びとにのみ関係するものではない。社会的排除の議論において、いわゆる「オールドカマー」「ニューカマー」「日本人」がそれぞれ個別的に論じられている現状にあって、それらの議論をつなぐ知見をポストコロニアリズムの視座から提示することも、今後の課題の一つである。

### 文献

O'Brien, Martin and Penna, Sue (2008) Social exclusion in Europe: some conceptual issues, *International Journal of Social Welfare*, 17(1), 84-92.

鵜飼哲 (1998) 「ポストコロニアリズム：三つの問い」 複数文化研究会編『〈複数文化〉のために：ポストコロニアリズムとクレオール性の現在』人文書院, 39-48.

Said, Edward W. (1993) *Culture and Imperialism*, Knopf. (=1998, 大橋洋一訳『文化と帝国主義 1』みすず書房.)